

## 平成28年度 業務実績報告書の自己評価に対するチェックシート

①項目	②年度計画の内容	③評価	④原因・経緯等	⑤H28の対応・措置等	⑥H29以降の状況等	報告書頁
Ⅱ－1 (4) 教育	【大学院課程】 行政機関、民間企業等訪問を積極的に実施し、入学定員と同数程度の志願者を常に確保する。	C	本学学部卒業（見込み）生を対象とした入学料の免除制度を継続し、4年次在学学生への周知、入学者募集案内の同窓会会員への送付や同窓会ホームページへの掲載、企業連携推進員を活用した民間企業等への周知及び行政機関や民間企業へのトップセールス等による、大学院入学に関するPRを行ったが、求人数の増加等による雇用環境の向上もあり、博士前期課程の志願者は入学定員数と同程度を確保することができなかった。	学部・大学院を通じた一体的な教育を行うべく、本学学部を卒業した者及び卒業見込みの者を対象とした入学料全学免除制度を継続するとともに、4年次生への周知、同窓会へのPR、行政機関や民間企業への訪問、ホームページの充実など入試広報に努めた。	入学料の全額免除制度を活かした学部生（学内推薦希望者）や学部卒業生への働き掛けを実施することに加え、教員体制や教育方法の充実など、大学院の魅力向上策を検討・実施することにより、志願者の確保に努める。また、入学定員についても検証を行い、必要に応じて見直し等を検討する。	23
Ⅱ－3 (1)④ 地域貢献	本学と公立はこだて未来大学との連携協定に基づくワークショップ等を実施し、学生及び教員との交流を推進する。	C	本学における交流メニューとして、10月1日開催の物産展への公立はこだて未来大学の学生の参加を呼び掛けたが、先方との調整がつかなかったことから、本年度は交流の実施を見送り、これまでの学生の交流から、教員を含めた交流へと実施内容を充実させる仕組みを検討し、平成29年度に実施することとした。	物産展への公立はこだて未来大学の学生の参加が見送られた後、交流メニューの調整をすることが困難であったため、本年度の交流の実施を見送り、平成29年度に向けた教員も含めた交流の仕組みを構築することとした。	学生のみならず教員を含めた交流となる仕組みを構築・実施する。	32